



東海体育学会第 67 回大会
抄録集

令和元年 11 月 2 日

会場：愛知学泉短期大学

目次

目次.....	1
東海体育学会 会長 挨拶	2
東海体育学会 第 67 回大会実行委員長 挨拶	3
大会実行委員	4
愛知学泉短期大学の構内案内図.....	5
愛知学泉短期大学の会場案内図.....	6
愛知学泉短期大学の周辺図	7
大会日程.....	8
参加者へのお知らせとお願い.....	9
特別講演	11
研究発表プログラム.....	13

東海体育学会 会長 挨拶

東海体育学会 会長

吉田 文久（日本福祉大学）

学会大会の新しい歩みの第一歩に

本日、東海体育学会第 67 回大会を無事開催できましたことには、会場校の愛知学泉短期大学の関係者の皆様のご協力、そして大会の開催準備をしていただいた実行委員の皆さんのご尽力のおかげと有難く感謝致しております。

理事会では、学会改革の一環として学会大会のあり方を検討し、来年度以降、会場を固定（名古屋駅近く）し、理事会が運営する大会運営に移行するなど新たな学会大会の展開をしていきたいと考えています。それにより、今回の愛知学泉短期大学で開催される第 67 回学会大会は、各県、地域を持ち回り、当番大学のお世話になって行う最後の学会大会にするという方針のもとで大会運営の準備にあたってきました。

そのような改革議論の前提となるこれまでの学会大会の歩みの一端をご紹介します。本学会は、1951 年 4 月に発足し、同年 10 月に第 1 回「支部学会研究発表会」という名称で名古屋大学医学部図書館を会場として学会大会がスタートしました。発表演題数は 16 演題で、発表内容は「体力・体格」「発育・発達」「学校体育」「測定・評価」「体育心理」などにわたっていました。また、併せて特別講演も行われていました。そして、翌年静岡大学で開催された第 2 回学会大会では、演題数が 38 演題と前年の倍以上の演題数に膨れ上がり、学会の結成の勢いを感じ取ることができます。また、発表演題のうちの 20 演題が小中高の先生方によるものであったこと、そして、そのなかで 12 演題が小学校教員であったことにも驚かされます。そのような学会大会の萌芽期を経て、1983 年に愛知教育大学で開催された第 31 回では、歴代最高となる 50 演題の発表がありました。当日は 1 日開催で特別公演はなく、研究発表だけの学会大会でしたが、その研究発表に 200 人近い参加者が集まり、発表を聞き、研究交流しました。しかし、発表者はそのほとんどが大学関係者であり、小中高の教員は数名であったようです。その後の学会大会は 20 から 30 演題の発表数にとどまり、大学関係者の学会という色彩を強めています。ポスター発表を位置づけるなどの対応もしてきましたが、発表者の確保にも苦労を続けているのが現状です。

これまで学会大会は開設以降、東海 4 県を持ち回り、各地に体育・スポーツ研究を根付かせ、振興を図る取り組みをしてきました。しかしながら、当番校の負担が大きく、またアクセスの問題や天候不良に対する危機管理などへの対応、そして独立学会として自立的運営をしていくために求められる合理化の検討により、理事会では学会大会を上述のように来年度から会場を固定し、理事会が運営する大会に変更しようという結論に至りました。

そこで、今回の 67 回大会は愛知学泉短期大学を当番校としながら、大会運営に理事会が加わり、来年度に向けた予行演習的取り組みにさせていただいています。具体的には、実行委員に理事会学会大会委員会のメンバーが加わり、シンポジウムの企画・運営は企画委員会、そして受付・案内は庶務委員会が主導で行うという形をとりました。その意味から、今回の学会大会は新しい一歩を踏み出す大切な大会と位置づけています。学会大会開設当時のように現場の先生方や指導者と研究者が集い交流する学会へ、また、体育学会、各専門学会等において学会大会が開催されている中で、本学会大会が他にはない、そして多くの参加者の方々によって研究交流が図られる場となるように、今後も検討を重ね、学会員の皆さんとともに前進していきたいと思っております。

本大会が以上のような意味もつことにご理解をいただき、本日参加された皆さんによって活発な議論が展開され、有意義な研究交流の場となることを願っております。最後に、改めまして愛知学泉短期大学の関係者の皆様、準備にご尽力いただいた方々に、この場をお借りしてお礼を申し上げます。

東海体育学会 第 67 回大会実行委員長 挨拶

東海体育学会 第 67 回大会実行委員長

秦 真人（愛知学泉短期大学）

東海体育学会第 67 回大会を愛知学泉短期大学で開くこととなりました。会員の皆さまのご来会を心より歓迎申し上げます。

本学は、1912（明治 45）年に安城裁縫女学校として出発して、家政系の職業学校、専門学校を経て 1950（昭和 25）年に安城学園女子短期大学、愛知学泉女子短期大学、愛知学泉短期大学と変遷し、今年で創立 107 周年となります。建学の精神「真心・努力・奉仕・感謝」の実践を教育の軸として、愛知学泉大学・家政学部とともに三河を中心とした地域に貢献できる人材の育成に力を注いできました。また「無限の可能性」への挑戦をスローガンに、学生たちが個々に持つ潜在能力の開発という視点から、外部組織との連携事業にも取り組んできました。数年前まではキャンパスが 3 カ所に分散していましたが、2007（平成 19）年にこの岡崎の地に統合し、現在では、従来知・徳・体の教育の基本に加え、感性（直感力）・行動特性の育成、すなわち「知・徳・体・感・行」の新しい教育モデルに基づいた教育を推し進めています。特に行動特性である「社会人基礎力」の養成では、本学の卒業要件とする独自のカリキュラムを構築し、年一回「学びの泉グランプリ」と称して全学生が集う成果発表会を催しています。

スポーツ関連では大学・短大の合同チームである女子バスケットボール部が、安城学園女子短期大学の時代から合わせると、インカレ優勝 18 回を誇っています。短大のカリキュラムとしては、生活デザイン総合学科ではスポーツ・レクリエーション関連の科目だけで 12 科目 14 単位を 2 年間で履修することが可能で、食物栄養学科では、昨年からはスポーツ栄養に力を入れることになりました。

本学会大会は若手研究者を中心に口頭発表 8 題、ポスター発表 15 題、筑波大学の清水紀宏先生により特別講演を予定しています。本大会も活発な質疑応答を期待しております。

最後に本学での学会大会を機に、大学持ち回りとしての会場運営ではなくなります。そのような節目であり、また東京オリンピックを来年に控えてスポーツに対する関心が高まる中での大会開催を、本学で催すことができることを大変嬉しく思います。

大会実行委員

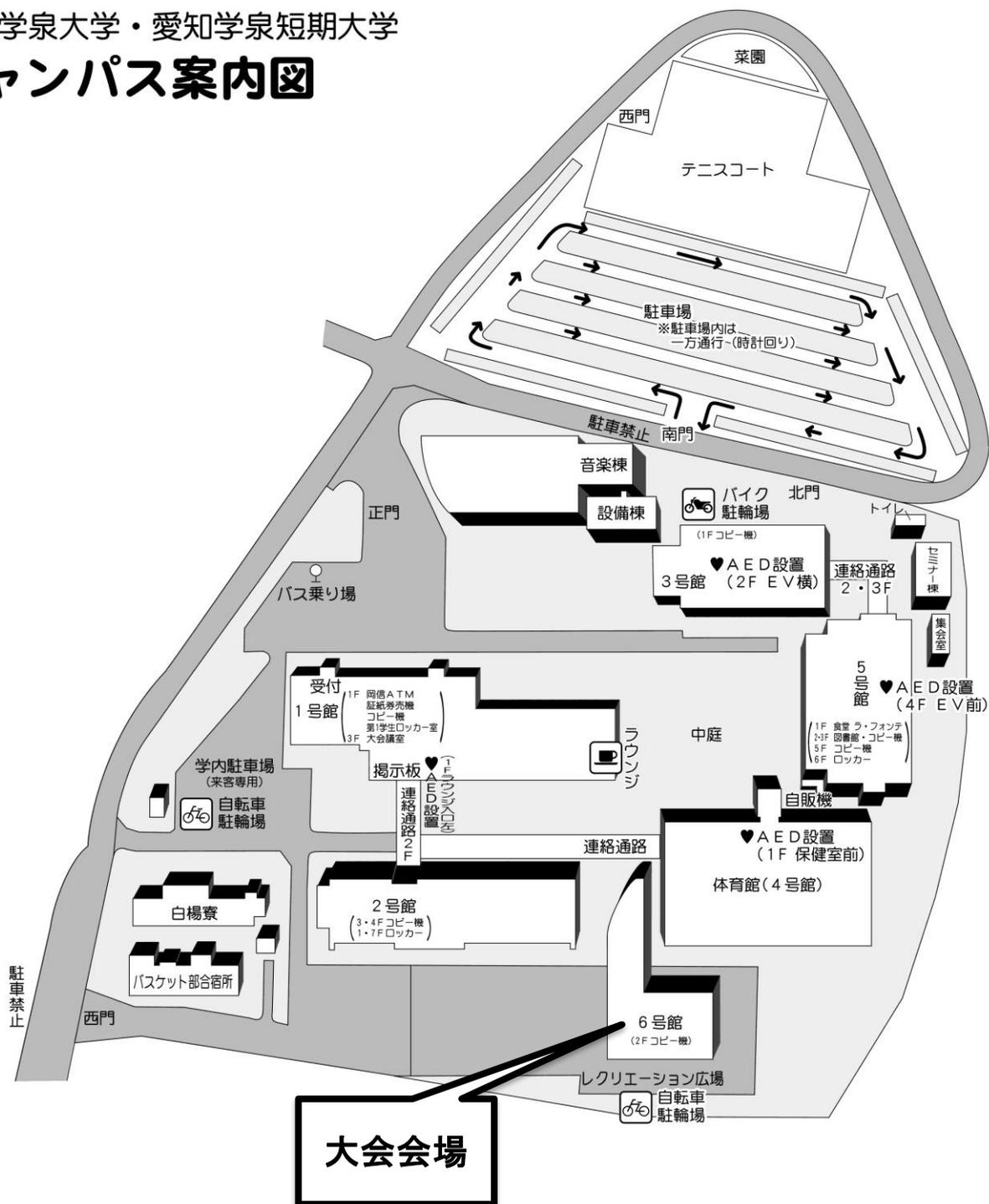
東海体育学会第 67 回大会実行委員会

実行委員長	秦 真人	(愛知学泉短期大学)
事務局長	小栗 和雄	(岐阜聖徳学園大学)
実行委員	斎藤 由美	(名古屋造形大学)
	桜井 伸二	(中京大学)
	館 俊樹	(静岡産業大学)
	伊藤 智式	(愛知学泉短期大学)
	伊藤 照美	(愛知学泉短期大学)
	加藤 彰浩	(愛知学泉大学)
	鈴木 石松	(愛知学泉大学)
	高橋 憲司	(愛知学泉大学)

愛知学泉短期大学の構内案内図

愛知学泉大学・愛知学泉短期大学

キャンパス案内図



愛知学泉短期大学の周辺図

キャンパス周辺図

駅から歩かれる場合、または昼食購入などはこちらを参考にして下さい。



大会日程

時 間	企 画 内 容 (場 所)	
9 : 30 ~	受付	3 階 ホール
10 : 00 ~ 11 : 00	口頭発表 1	4 階 6 4 1 大講義室 R
11 : 05 ~ 12 : 05	口頭発表 2	4 階 6 4 1 大講義室 R
12 : 05 ~ 13 : 00	理事会	3 階 6 3 2 講義室
	昼食・休憩	4 階 6 4 1 大講義室 L
13 : 00 ~ 15 : 00	特別講演 清水 紀宏 氏 (筑波大学体育系 教授) 『格差社会と子どものスポーツ ～社会問題としての子どもの体力～』	ポスター掲示 4 階 6 4 1 大講義室 L
		4 階 6 4 1 大講義室 R
15 : 10 ~ 16 : 10	総会	4 階 6 4 1 大講義室 R
16 : 20 ~ 17 : 20	ポスター発表	4 階 6 4 1 大講義室 L
17 : 20 ~	閉会の辞	

参加者へのお知らせとお願い

1. 受付・お知らせ・お願い

受付

- 1) 受付会場は6号館3階ホールにございます。参加者は必ず受付を行なってください。会員の参加費は無料です。非会員の方は「当日参加会員」の手続きを行ない、参加費として1,000円をお支払いください。
- 2) 受付後、ネームカードに所属と氏名をご記入の上、大会期間中は必ずご着用ください。お帰りの際にはネームカードを受付にご返却ください。

お知らせ

- 1) 休憩室として6号館4階641大講義室Lを開放しています。ご自由にご利用ください。
- 2) 昼食は用意できません。持参するか、車で10分のショッピングセンターや徒歩で5分のコンビニエンスストアを利用するなどの対応をお願いします。
- 3) 大会当日の午前6時の時点で名古屋市に暴風警報が発令されている場合は大会の全日程を中止とします。その際、HP・メール等での中止の通知は致しませんので、あらかじめご了承ください。その他の災害については適宜ご判断ください。

お願い

- 1) 研究発表・総会時に発言される方は、必ず挙手の上、座長や議長の指名を受けた後、所属と名前を告げてから発言してください。
- 2) キャンパス内での喫煙は屋外喫煙所にてお願いします。
- 3) 研究発表中に写真やビデオを撮影することは禁止します。発表者や周囲の迷惑にならないようご協力をお願いします。

2. 口頭発表の演者の皆様へ

- 1) 演者は発表時刻の30分前までに受付を済ませてください。
- 2) 口頭発表はパソコンプロジェクターによって行います。資料を用いる場合は、各自で100部程度を準備してください。発表の際、データが記録されたメディア（USBメモリなど）をご自身で発表用パソコンに接続してください。なお、大会事務局が用意するパソコン環境は、OSがWindows10、プレゼンテーションソフトがPower point 2016、動画再生ソフトがWindows Media Player12です。文字化けを防ぐために、フォントはOS標準フォントをご使用ください。受付に動作確認用パソコンを設置しますので、各自で必要に応じて、動作確認を行ってください。
- 3) Windows以外のOS（例：Mac）をご利用される場合は、各自でパソコンと変換コードをご持参ください。大会事務局が用意できるパソコンコネクタの形状はHDMIとD-sub15ピンです。この形状に変換するコネクタを各自で用意ください。なお、会場視聴覚の都合上、音声を使用される場合は、HDMIのみとなります。

- 4) 次の演者は、必ず次演者席で待機してください。
- 5) 1 演題の割り当て時間は、発表 10 分、質疑・討論 5 分の合計 15 分です。座長の指示に従って、指定された時間内での発表をお願いします。時間の合図は次の通りです。

合図	経過時間
ベル 1 回	発表の終了 2 分前・予鈴 (8 分経過)
ベル 2 回	発表の終了 (10 分経過)
座長指示	質疑・討論の終了 (15 分経過)

3. ポスター発表の演者の皆様へ

- 1) ポスターは、縦 180cm、横 90cm 以内のサイズで作成してください。ポスターには演題名、演者名、所属を必ず明記してください。
- 2) ポスターは、午前 10 時 00 分までに掲示してください。展示パネルの左上部に演題番号を表示しますので、該当する番号のパネルをご利用ください。押しピンは大会事務局で用意します。
- 3) 午後 4 時 15 分までに各自のポスターの前にお立ちください。
- 4) 演題番号順に 3 分間の発表を行ってください。発表時間の延長は認めません。質疑・討論は、全てのポスター発表が終了後、午後 5 時 20 分までにお願いします。
- 5) 閉会后にポスターの撤去をお願い致します。撤去されていないポスターは、大会事務局で処分します。

4. 座長の先生方へ

- 1) 座長の先生は、担当セッション開始 30 分前までに、座長受付を済ませてください。
- 2) 質疑に際しては、発言者に対して所属と氏名を告げるようにご指示ください。
- 3) 発言者が少ない場合は、発表者に質問や助言などをして討論を深めるようにご配慮ください。
- 4) 発表、質疑・討論時間は、口頭発表で 15 分、ポスター発表で 3 分です。質疑・討論終了時間は座長によりご指示ください。
- 5) 発表中の写真・動画撮影は禁止しています。また、発表中、静穏な環境を保つために、必要に応じて座長からも会場にご注意ください。

5. 理事会／各種委員会への出席をされる先生方へ

- 1) 理事会は、昼休み時間の午後 12 時 05 分から、6 号館 3 階 632 講義室で行ないます。
- 2) 学術奨励審査委員会は、午前 9 時 30 分およびポスター発表終了後から、6 号館 3 階 632 講義室で行ないます。

[当日の緊急問い合わせ先 : 090 - 4182 - 3029 (小栗・携帯電話)]

格差社会と子どものスポーツ

～ 社会問題としての子どもの体力 ～

講師

清水 紀宏 氏

筑波大学体育系 教授

専門は体育・スポーツ経営学。前日本体育学会常務理事，日本スポーツ体育健康科学学術連合運営委員長，日本体育・スポーツ経営学会副会長

座長

春日 晃章（岐阜大学）

会場

6号館 4階 641大講義室 R

内容

- | | |
|-------------------|-----|
| 1) 挨拶およびシンポジストの紹介 | 5分 |
| 2) 講演 | 90分 |
| 3) 質疑応答・ディスカッション | 25分 |

特別講演 企画趣旨

近年のわが国では相対的貧困率及び子どもの貧困率が上昇し、格差社会が生み出す病理的現象が多くの研究分野において解明されつつある。一方、子どもの体力は、長年にわたる低下傾向に加え、近年では、運動習慣の二極化が問題視されるようになってきている。また、子どもの運動・スポーツ習慣は、古くから家庭環境や親の諸条件と関連性があることは指摘されてきたが、その実証的研究の成果は特に近年では報告がない。

従来、スポーツを論じたり研究する際に、少なくとも日本では「階層」(所得・職業・学歴など社会・経済・文化的資源を基準としたてみた社会的地位やカテゴリー)という観点が意識され、取り入れられることは少なかった。それは、1970年代頃までであれば、経済階層や貧困と子どものスポーツ行動は、ほとんど関連性もなく、学術研究の俎上にあげる必要もなかったからである。つまり、運動遊びやスポーツは、商品価値(交換価値)をもたない子ども世界の自助共助による自給財であったからであり、貧富の差に関わらず誰もが享受できる文化であった。しかしながら、経済の成熟化とともに、スポーツサービスの市場化と地域スポーツにおける受益者負担化(有料化)が急速に進み、家庭という私事的領域に依存する傾向が強まることで、経済格差が子どものスポーツへのアクセスに不平等を生じさせつつある。家庭の経済的条件が子どものスポーツ参加に及ぼす影響については、「学校外教育活動に関する調査 2009」(ベネッセ 教育研究開発センター)によりその一端が明らかになっている。今日の子どもスポーツは、金が不必要で大人の関与のない運動遊びは消失し(遊び社会の衰退)、「裕福な家庭に生まれなければスポーツさえもできない」状況となりつつある。また、阿部(2008)によれば、親の年収によって「子どもと十分に遊んでいる」親の比率に大きな差があることがわかっており、地域スポーツやスポーツ産業の領域のみならず、ファミリースポーツにも経済的要因の影響が表れていると考えられる。

2012年に制定されたスポーツ基本法では、その前文において「スポーツを通じて幸福で豊かな生活を営むことは、全ての人々の権利であり、(中略)日常的にスポーツに親しみ、スポーツを楽しみ、又はスポーツを支える活動に参画することのできる機会が確保されなければならない」とその法理念が謳われた。従って、全ての子どもたちにスポーツへのアクセスとそのアウトカムとしての一定水準の体力保障は、今や公共的課題となっている。しかしながら、わが国の子どもをめぐるスポーツ現実は、平等性や公平性において、深刻な問題が生じていることが予想される。そこで、本特別講演では「格差社会と子どものスポーツ～社会問題としての子どもの体力～」をテーマとすることにした。

研究発表プログラム

口頭発表 1

10:00~11:00

座長：伊藤 智式（愛知学泉短期大学）

会場：6号館4階 641大講義室 R

10:00 **O-1-発育発達**

可兒 勇樹（愛知工業大学大学院）

人における「ベルクマンの法則（Bergmann's rule）」の適用を探る
-日本人の身長を経年的推移から-

10:15 **O-2-発育発達**

小椋 優作（愛知工業大学大学院/中部学院大学短期大学部）

高身長とスポーツアスリートの因果関係を探る

10:30 **O-3-発育発達**

小島 莉緒（岐阜大学大学院）

運動が苦手な子どもを対象とした運動集中プログラムが子どもの基礎運動能力に及ぼす影響

10:45 **O-4-発育発達**

奥田 智大（岐阜聖徳学園大学大学院）

ジュニアアスリートにおける体格および体力の縦断的变化
-スポーツタレント発掘事業で選抜された小中学生を対象として-

口頭発表 2

11:05~12:05

座長：篠田 知之（岐阜協立大学）

会場：6号館4階 641大講義室 R

11:05 **O-5-測定評価**

濱口 あずさ（岐阜大学大学院）

女子児童・生徒の運動・スポーツおよび体育授業に対する嫌悪感特性の加齢変化

11:20 **O-6-体育科教育学**

柳瀬 慶子（常葉大学）

身体表現遊びにおける教師の役割に関する事例的考察

11:35 **O-7-体育方法**

田高 悠晟（静岡産業大学）

Reactive Agility Test における方向変換動作と敏捷性構成要素の関係

11:50 **O-8-運動生理学**

伊藤 智式（愛知学泉短期大学）

シャトルラン往復持久走テスト時の最大心拍数とその評価

座長：香村 恵介（静岡産業大学）

会場：6号館4階 641 大講義室L

16:20 **P-1-体育方法****吉田 康生（岐阜協立大学）**岐阜県O市シニアカレッジの受講者の体力とレジャー(余暇)活動との関連
- レク式体力測定と部門別レジャー活動内容の特徴について -16:23 **P-2-体育経営管理****小原 慶祐（岐阜協立大学大学院）**アリーナ施設における整備環境の新潮流
- 台北アリーナを参考として -16:26 **P-3-体育経営管理****岡田 一哉（岐阜協立大学）**2030年札幌冬季オリンピック再招致における課題
- 開催概要計画書における不合理を読み解く -16:29 **P-4-発育発達****早川 健太郎（名古屋経営短期大学）**

日本人青年男子の Phase Angle と運動頻度の関係

16:32 **P-5-発育発達****浦野 忍（名古屋芸術大学保育専門学校）**加齢変化を考慮した幼児期の体格・体力の評価基準の構築
- 男児の解析 -16:35 **P-6-発育発達****田中 望（東海学園大学）**若年高度肥満者における身体健康情報の構図
- BMIに基づく形態的質差違による観点から -16:38 **P-7-発育発達****糟谷 浩輔（愛知工業大学大学院）**

女子スポーツ選手における初経遅延リスク分析

16:41 **P-8-発育発達****上田 燈（春日井工業高校）**

福島原発事故後の環境推移による体格の思春期ピークの変動分析

- 16:44 **P-9-発育発達**
武山 祐樹 (愛知工業大学大学院)
BMI 変動に伴う身体情報リスクの臨界点の模索
-ウェーブレット補間モデルの適応-
- 16:47 **P-10-発育発達**
栗田 悠平 (愛知工業大学)
身体のプロポーションと黄金比
- 16:50 **P-11-発育発達**
南 輝良々 (岐阜大学大学院)
幼児の体力・運動能力と非認知機能特性の関連に関する性差
-非認知機能特性の伸び量に着目して-
- 16:53 **P-12-発育発達**
館 俊樹 (静岡産業大学)
GPS 測定器を活用した中学校保健体育サッカー授業における走動作に関する基礎調査
- 16:56 **P-13-測定評価**
小栗 和雄 (岐阜聖徳学園大学)
大学生のフットサルゲーム中における活動量の特性
-GPS 機器を用いた移動距離と移動速度の測定から-
- 16:59 **P-14-測定評価**
大坪 健太 (岐阜大学大学院)
中学生の学力と体力および運動時間との関連
- 17:02 **P-15-測定評価**
白井 祐介 (東海学園大学)
異なる認知的負荷が持久性パフォーマンスに及ぼす影響
- 17:05 ~ 17:20 **ディスカッション**

東海体育学会 第 67 回大会

The 67th Conference of Tokai Society of Physical Education

抄録集

東海体育学会 第 67 回大会実行委員会編集

令和元年 10 月 21 日発刊

〒444-8520 愛知県岡崎市舳越町上川成 28

愛知学泉短期大学

東海体育学会 第 67 回大会実行委員会（秦 真人 実行委員長）

T E L 0564-34-1212（代表）